

## 地域医療を守ります

津市長 前葉 泰幸



平成23年9月、美杉町一帯は台風12号の豪雨に見舞われ、伊勢地地区では国道368号にかかる所川橋が土石流で流出する被害が発生しました。基幹交通路が遮断されるなか、地区で唯一の診療所まで山道を大きく迂回して通り、給水車による水の補給を受けながら1日たりとも休まずに診療を続けた89歳の医師がいました。菊山靖子さんです。

昭和26(1951)年より伊勢地で「患者さん第一」「忍耐」を信条に地域医療に尽くされ、住民ひとりひとりのからだを熟知し絶大なる信頼を寄せられていた菊山医師も92歳を迎え、ついに引退を決意なさいます。昭和34(1959)年以来、院長としてたったひとりで55年間守り続けた伊勢地診療所は平成26年6月をもって閉院となりました。

伊勢地には247世帯、520人ほどが暮らしています。うち、65歳以上の高齢者は約6割。他地区への通院もままならず診療所の再開を求める声が日に日に高まります。医師の確保は難渋を極めましたが、翌27年春、ようやく三重大学医学部及び三重県との協議が整い、一志病院に勤務する医師を週に1回伊勢地に派遣することになりました。

同年5月、伊勢地診療所に再び明かりが灯り、家庭医療専門医の資格を有する鶴田真三医師の巡回診療が始まります。着任当時32歳。元気で明る

く聞き上手。親切丁寧な診察はたちまち地域で評判になり、何でも気軽に相談できるお人柄に、診療所が開く毎週水曜午後の2時間は待合室が十数名の患者でいっぱいになるほどでした。

鶴田医師のご活躍と伊勢地地区からの安心の声に背中を押され、津市は地域医療のさらなる充実を図る構想を打ち出します。美杉地域には津市の国民健康保険竹原診療所のほか八知・多気・下之川に民間診療所がありますが、八幡・太郎生では未だ医師が不在となっています。そこで、奥津に新たな診療所を設けて伊勢地にも巡回診療を行うとともに、通院が難しい患者のもとには訪問診療ができる医師を常駐させられないかと考えました。地域医療の拠点病院として居宅に身近な総合診療の充実を目指す県立一志病院と、総合診療専門医の育成に地域密着の家庭医療の現場を重視する三重大学医学部の意向とも合致し、昨年秋、「津市家庭医療クリニック」の開設が決まりました。

新しいクリニックは美杉高齢者生活福祉センターの一角を改修して整備しました。すでに工事を終え、4月の開院を待つばかりです。クリニック専任医師に就任予定の鶴田医師は、地域に根差した診療を志され、ご家族で美杉町内に引っ越してこられました。

時を同じくして、お城西公園西側に「津市応急クリニック」もオープンします。これまで暫定的にリージョンプラザ内に開設していた津市夜間成人応急診療所を4月より夜間に加え休日昼間の応急医療も受け付ける体制として充実させます。津市は、これからも地域の医療を守るため最善の努力を続けてまいります。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

## 市長の活動日記から

- 第21回全国障害者スポーツ大会津市準備委員会設立総会・第1回総会(メッセウイング・みえ)…1月25日



平成33年の全国障害者スポーツ大会に向け、準備委員会を県内市町で最初に設立。アスリートの祭典と位置づけ、3会場4競技の舞台を整えます。

- 第12回津シティマラソン大会(安濃中央総合公園周辺)…1月29日

風もなく穏やかな天候のもと、2,772人が健脚を競いました。私も10kmの部に参加。ランナーとの交流を楽しみながら駆け抜けました。



- 津学生情報室・Loupe第3号発行報告…1月30日



三重大学と三重短期大学の学生たちが若者目線で魅力的な地元の施設や店舗を取材し発信します。津のまち情報誌ルーペ、1部200円で発売中。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索